

相模原市が実証事業により目指すワーケーションのイメージ

相模原市の特色

都心からのアクセスの良さ
日帰りも可能
身近な自然の豊かさ
アウトドア環境の充実

社会的背景

テレワークへの理解浸透・導入企業の増加
柔軟な働き方へのニーズの高まり
ウェルビーイング（社員の幸福）経営への関心増

×

テレワークの課題

気軽なコミュニケーションが減った【72.3%】
モチベーションに影響がある【82.6%】
会社と社員の繋がりに課題を感じる【84.2%】

※調査名称:モチベーションに関する調査『月刊総務』調査

ワーケーション実施に向けた企業の課題

労務管理とセキュリティに課題
働き方だけでなく+αの名目がないと社内の不公平感がある
心身ともにリフレッシュする要素を加えたものが理想
アイデアが生まれる付加価値がある場があれば参加したい

※令和2年度ワーケーション等普及促進モデル実証事業成果報告書より抜粋
(東京都産業労働局)

目指すべき
方向

- 組織力強化、コミュニケーション深耕を目的とした短期間のチームビルディング合宿
- アクセスの良さ・自然環境の良さを活かしたリフレッシュとその場所ならではの付加価値のあるプログラム

【コンセプト】 さくっと行ける ビジネスコミュニケーションに効く チームを強くする

チームdeワーケーション in 相模原



都心から1時間。少し環境を変えるだけで新しい景色がみえてくる。企業のビジネスを強くする。
相模原ワーケーションスタイル、はじまる。

事業イメージ

モニターツアー（造成する商品）のイメージ

●活用が期待されるフィールド・資源



●ワーク(業務・研修)との組み合わせが期待されるコンテンツ例



☞ “ワーク”と“遊び”を切り分けたワーケーションだけではなく、チームビルディングや研修として企業が扱いやすいコンテンツを造成・提供する。

実施主体（再委託先）の業務イメージ

事務局の伴走支援を受けながら、滞在コンテンツの開発と運営（モニターツアー）を行う中山間地域で活動する団体・事業者。

